奇遇

東海散士著

五

へ14
191
5

東海散士著　三編

佳人之奇遇

東京書林　博文堂發兌

東京帝國大學圖書

於 191 八

序

小說家の期する所は稗史の巧妙を
弄し世態人情を描出するに在り
之を仮りて定見理を示し容易に人
心に貫徹せしめんとするものにして
其目的の外に期する所は其叙

へ14
191
5

する所の時勢を活ひ又其人を撰
ひ、由て世上百般の事を状出し政治社
會に関する俳邑村落の状人の賢愚心性
高卑皆寫さるる所なく或ハ其人をして
人間の幸福を説かしめ学術の應用
を示さしめ又或ハ美術の妙趣を講説

しむるかの如き甚効用の社會に関する実
に尠少なるなる所なり
歴史家ハ人間社會の事を誌す能れとも
実事を実録し偶ま文字を以て之を
潤色するハ過きさるなり是故に古今
の大家と雖も能く読者をして其昔

時を遡り其實地に當る事思を起さしむ
るもの稗官小說家い之と異なる作者の
意想を借ひ人物時勢を寫し其人物
の心術動作恰も眼帝上に躍出し事實行
かんと欲する所を行き墨其止うんと欲
する所に止り讀者をして自ら其地に立

ち其時に於て其勢に乘ずるの想あらしむ
るものなれとも固より歷史家に大に其旨
を異にす又夫の一國の政權を握り民間
の政務を以て自ら任する大臣若士に如
きも廣く世態人情を察し古今
を通覽して錯羅して能く之

を分析し又之を總括し泰然動かざる
百年の大計を定むるの智量見識を
具へるものを以て之れハ其位の高きと其
責の重きとを安ずる信兆の望を満足せ
しむること難しと雖も而して小説を著す者能く
毫端を動かし三寸を動かすを得へ

し身之を行ハすして一國の政権を掌り
民間の政務を以て自ら任ずる者に為
す能ハさる所を為す其力亦大なりと
謂ふべし
小説の世に行ハるゝや如何ぞ其大なる
能ハ而して世の小説を著す者動もすれハ

其期すべき所を出らすして點與猥
雜の事を叙するのみなれハ徒に政治
の思想慷慨の激論を述るに過きさて
抑政治なるものハ世態人情中の一分の
に過ぎ人々政治を以て業とし他
に其職を有せさるの邦國にハ人文

の極度に達したるの社會と謂ふ可し
故に政治を以て社會の大事となし其
他を知らるるハ與に論するに足らす
之を主とし更に其他を顧みさるの
小說に美を尽し善を尽したるもの
謂ふ能ハさる所なり

余ら支那海数年久しく異邦に遊び其
間歴する所に就て一書を著し佳人
之奇遇と曰ふ志高きの士と智深きの
女を綴り西洋の理論を標準として
東洋の国事を論じ以て其懐を述
へんとするもの如し趣向新奇にして

文は我国従来の小説と異りて散文
にして篇ハ廣く人間萬物の現象を網
羅し真正の小説を著さんとして筆
を振りたる如き偶然其感を述へん
と欲して遂に此篇を為したるもの
なる如ク若ハ全篇を通覽する人非されハ

赤多之を書る能はゝるなり想ふに幾多
の士女流離困苦の中より奔走して君父
の大難を救ひ忠家の危急を助くゝ
狀を見れば猶慷慨悲憤を事とする
如しと雖も後巻功成り名揚るの篇
に至らゝ徒に愁嘆呻吟するまに非
ゝ別に期する所あるを詳にする
を得んのみして夫の米國新説男女同權
論の如き身自ら之を講究を行ひ淡
者をして自ら識らしむ其真面目を悟
らしめ又時の已むを得ざるに出つれば旋
壯活潑艱難に周旋するの女も其悠〻

家に在るの時は百てハ静嫋淑徳親子の情愛を傷らハしまゝの大倫を紊さハ男子をして之を数慕まゝきの女たるを者〻あるして人生の幸福ハ貧富貴賤を論せハ一家の親睦に至るゝと、我者〻むるに終る其日都鄙の情状を

叙し学術の應用美術の精巧を進るに至らん欲弦れとも是果して散士の意ある所や否やまた能ハさるなり

今年春散士欧米に遊ふ發ちるに臨み余に託ちて出版の事をなす須者第五冊を刻成る書肆来り

て序跋の事を謀る余その書を著
す者を観るに高官に請ひ名士に懇
し其評論序跋題字を得ていく
とれか拙を掩ひ其虚譽を鈎らんとす
る者多し蓋し序跋を得んと欲其
成ハ其事を寄うかし成ハ相成る

ものこそ結ぶくし徳されハ序跋ハ
序跋なきに如かざるなり 敬士国より
此に見るに前篇皆其人を擇ぶ苟も
序跋を求めず能く其旨を得たるか
如しこれ而して本篇ハ固より自
ら擇ふ所にして余も亦鞅掌の間之

を他人より請ふの間あり又請ふ人きの人あるを以て固より意に省かんとせ
ざれども書肆之を聽かず遂に余を
して序せしむるに至る余も素より
法律を事とする者此篇に序するに
きの人に非ざる似しかも且つ法律余は

法律書籍序跋を嗜むるもの多し余
輩は虚譽を動くるの忘むべきを以て未
だ曾て其需に應ずることあらざりしか而
して猶ほ此篇に序するものは散士と
交るの最も深きを以て故り但余は
散士の才學著述を稱揚する者に何

ら其才学ハ散士自ら之を示さへ
其著述ハ読者自ら之を是非すべし明治
十九年小暑日芳暉園主人録於碓川
光雲閣

明治
新
本社蔵人之
本社
新

佳人之奇遇巻五

東海散士　著

単衣軽裳。以便于跋渉。而望遠鏡以觀地勢。可知是非尋常汗漫之游。

翌朝守城長僕。御ヲ。従へ。雕車ヲ。驅リ。來リ迎ヘテ曰ク乞フ昨夕ノ約ヲ履マント妾乃チ。単衣。軽裳。殊ニ風流ノ粧ヲナシ肩ニ望遠鏡ヲ懸ケ手ニ蒲鞭ヲ提ケ出テ、守城長ヲ揖ス守城長怪ミ問テ曰ク令嬢何為レソ軽粧此ノ如クナルト妾答ヘテ曰ク屢僕御ヲ従ヘ雕車ヲ驅ラハ人ノ耳目ニ觸レ易シ且ツ右顧左眄胸襟ヲ開テ以テ閣下ト親話

自守城長癡情見之。亦千歳之一時也。

有願欲言恐抒情人之意。眞是狂童之煩惱。

スル能ハサレハ興味亦索然タルヲ免レス今日ハ即チ千歳ノ一時ニシテ而モ僕御ノ爲メニ煩累スル所トナル豈又遺憾ナラスヤ故ニ雕車ヲ捨テ僕御ヲ去リ更ニ小車ヲ驅リ唯閤下ト相携ヘテ我意ノ欲スル所ニ至リ雲ヲ履ンテ花ヲ折リ青草ヲ藉テ香風ニ嘯キ以テ心情ヲ娛マシムルノ趣アルニハ若カスト守城長喜色ヲ呈シテ曰ク是僕ノ日夜願フ所唯今孃ノ意ニ抒ハンヿヲ恐レテ未之ヲ言ハサルノミ高意ニシテ眞ニ此ノ如クナラハ豈輕裝ノ遊ヲ好マサランヤト嗚

紅蓮談話。忽斷忽續。有横雲敗筆之趣。

彼為利此為義。其心雖異。知其為惡而為之則未嘗不同。然則天下有惡事無惡人。何況出於忠孝節烈之餘。感激為之者乎。

乎彼身國家ノ大任ヲ負ヒ而シテ色ニ迷ヒ慾ニ溺レ妾等ノ計策ヲ覺ラス自妾等ノ陷阱ニ墮ツト更ニ語ラントス欲シテ忽首ヲ低レ沈思紆慮謂フ能ハサル者ノ如シ既ニシテ曰ク話シテ此ニ至レハ妾聊カ郎君ニ向テ愧ツルモノアリ蓋彼本ヨリ氣節ナク大志ナク財ヲ貪リ色ヲ好ミ忠ヲ忌ミ能ヲ害スルノ一賤丈夫ナリト雖モ妾モ亦一處女ノ身ヲ以テ花柳ノ色ヲ粧ヒ狹斜ノ情ヲ飾リ之ヲ騙シ之ヲ欺クニ傚フ安ソ心ニ快トセンヤ今郎君妾カ謂フ所ヲ聞キ妾ヲ賤ミ妾ヲ

說來說去恐仙郎或生厭棄念眞是少艾之癡迷。

曰惡令娘疎令娘忽翻出婉言曰助之贊之其音悠揚如黃鸝自幽谷遷喬木劉然一轉吾知紅蓮腸斷肉消嗚呼散士實戚夫人子者。

疎スルハ念ヲ萌サンヿヲ恐ルヽナリ唯是交友ノ誼已ム可カラサルニ出ツ冀クハ郎君之ヲ察セヨト散士曰ク凡ソ浮世ノ事時ト勢トニ由テ變ス若シ令娘ニシテ私欲ハ為メニ人ヲ欺キ色情ハ爲メニ人ヲ陷ルヽノ計策ヲ行ハヽ余ハ令娘ヲ惡ミ令娘ヲ疎シ又令娘ト相見ルヲ欲セサルナリ若シ夫レ然ラス苟モ令娘ニシテ果シテ天下ノ為メニ小人ヲ欺キ國家ノ爲メニ姦臣ヲ陷レ以テ懲戒ハ鑑トナシ以テ勸導ハ階トナサハ余ハ則チ令娘ノ僞言モ之ヲ助ケ令娘ノ欺計モ

罵盡千古腐儒筆力萬鈞余謂之鈴斬之斬馬劍。

眞箇志士。眞箇義士。眞箇忠臣。眞箇任俠。

之ヲ贊ケ相共ニ大ニカヲ盡ス可シ令娘カ幽蘭女史ノ忠孝ノ囑托ヲ重ンシ正義ノ爲メニ身ヲ屈シテ姦徒ヲ陷ルヽカ如キ澆季浮薄ノ今日ニ當テ或ハ利ヲ見テ義ヲ忘レ或ハ危キニ臨テ志ヲ變シ或ハ時ヲ知ラス勢ヲ察セス偷安筆ヲ弄シ兀坐舌ヲ鼓シ徒ニ他人ヲ貶議スル者ノ為メニ悅ハレサルヘシト雖モ余ハ則チ令娘ノ志ヲ憐ミ令娘ノ行ニ感シ俱ニカヲ同フスル能ハサルヲ憾ムノミ蓋シ人アリ其胸襟ヲ吐露シ余カ救援ヲ請フ者アラハ義氣ノ激スル所精神ノ感ス

散士五尺軀能負此四者抑是眞箇有力士耶

此莞爾一笑自王羅見之果値幾千金

昨非今是是非往來循環無端安知非是之為非而非之為是哉是非混沌唯達人

ル所骨ヲ碎キ身ヲ殺スモ猶悔サル可レ瑣瑣タル偽言詐術固ヨリ問フ所ニ非ラサルナリト紅蓮之ヲ聞テ曰ク郎君ノ志果レテ此ノ如キカ妾何ソ詳ニ之ヲ語ラサランヤ

既ニレテ悉ク雕車ト僕御トヲ去リ妾守城長ト一小車ニ乘レ城市ヲ出テ南ニ去ル一里許リ妾莞爾トレテ謂テ曰ク今日ノ遊樂キカト守城長曰ク昨夕ハ反臣ト車ヲ同フレ今朝ハ仙妃ト駕ヲ供ニス昨ハ非ニレテ今ハ是ナルモノト妾故サラニ笑テ曰ク先キニ閣下カ妾ヲ忘レ妾ヲ疎

紅蓮守城長ト水涯ニ憩フノ圖

神田區東松下町十六番地小柴英印行

知之。

綺語麗句。妙不可謂。王羅亦是風流粹士。安知散士聞之。心頭不頓起嫉妬念哉。

レ車ヲ同フシレ手ヲ携ヘ間吟清咏情ヲ怡ハシレメ心ヲ樂マシムルノ地ハ何ノ邊ソヤ想フニ靜間幽邃塵客俗人ノ情話ヲ妨クル者ナカラント守城長綏ヲ緩フシレ笑テ指シテ曰ク那處ニ在リ實ニ蕭岑トシテ令孃カ謂フ所ノ如シ今日亦那處ニ憩テ以テ相語ランカ我カ情話ヲ聞クモノハ翠梢ノ孤鳥ノミ我カ艶語ヲ嫉ムモノハ緑柯ノ殘蟬ノミ清流ノ潺潺タル心ナクシテ我カ雙影ヲ寫シ涼風ノ習習タル情多クシテ我カ衣裳ヲ吹ク眞ニ得易カラサルノ勝地ナリト且笑ヒ且

其姿綽約。其心勇悍。目覩而手圖之。口舌以眩其心目。真是一女軍師也。詩曰哲婦傾國。哲婦傾城。明哲之婦。善用之則巾幗之丈夫。不善用之則厲階之人。

語リ漸ク山横水流ノ邊ニ入ル妾望遠鏡ヲ出シ東西ノ村落ヲ指點シ遠邇ノ森林ヲ下瞰シ其山名ヲ問ヒ其水姓ヲ敲キ陽ニ風光ノ美ナルヲ賞シ陰ニ地勢ノ險夷ヲ探リ鉛筆ヲ捉リ白紙ヲ展ヘ其奇景ヲ寫スカ如クシテ山徑ヲ究メ水支ヲ明ニシ卒ニ一小地圖ヲ製セリ又行ク〻數丁遙ニ石橋ノ高ク溪流ニ架スルヲ見ル時ニ青天湛然炎暑薫赫旱氣轉甚タレ守城長車ヲ橋下ニ留メ馬ヲ緑蔭ニ維キ首ヲ回シ一巨石ノ水涯ニ横ハルヲ指シテ曰ク僕ノ始メテ幽將軍ト此地ニ

處處貼出老將軍是所謂草蛇灰線法也。

遊フヤ彼石上ニ憩ヘリ當時僕警衛ノ大任ヲ負ヒ反逆ノ大囚ヲ伴ヒ此無人ノ境ニ入ル若シ人アリ來リ奪ハ、其禍害ノ及フ所獨僕ノミナラス國家ノ安危ニ關スル亦期ス可カラス是ヲ以テ深林ニ對スレハ其伏兵ノ潛ムアランヿヲ恐レ巖石ニ逢ヘハ刺客ノ匿ルヽアランヿヲ慮リ身ハ此清幽ノ佳境ニ在テ此苦心焦慮ヲナシ而シテ令孃ヲ見テ情ヲ叙シ一日ヲ永フシテ懷ヲ娛マシムルヿ能ハス孤鳥ノ喃喃タルハ悽怨ノ聲ヲナシ流水ノ湲湲タルハ惆悵ノ響ヲナス其

是易所謂見家負塗。載鬼一車。先張之弧。後說之弧者。昔時有一怯夫。曉行山中。宿霧中隱隱見幽鬼來。張弓將射。近而觀之。則吾弟也。怯怖之人。往往有此等事。守城長亦此之徒耳。

措字綺麗用句奇巧。求之六朝文粹亦不可得。自是東海散士一家文格。

情何ソ堪ユ可ケンヤ然レ𪜈今日卒然令孃ト手ヲ携ヘテ此地ニ游フヲ得タリ昨日苦心焦慮ノ地ハ頓ニ目ヲ娛ハシメ神ヲ怡ハシムル處トナリ昨日悽怨惆悵ノ音ハ忽情ヲ樂マシメ耳ヲ喜ハシムルノ聲トナレリ唯恨ム明日復彼老餘ノ囚徒ト車ヲ同フセサル可カラス而シテ又令孃ヲ見ル能ハサルノミ鄙語ニ曰ク月明ナラントト欲スレハ浮雲之ヲ掩ヒ花漸ク發テ風雨之ヲ散スト人事ノ意ノ如クナル能ハサル眞ニ歎ス可キ哉ト妾愀然トシテ車ヲ下リ秋波情ヲ凝シ斜ニ守城長ヲ見テ曰ク月ニ浮雲アリ花ニ風雨アリ閣下ノ言ノ如シ妾亦今日ノ行樂ニ感シ明日ノ愁情ヲ思ヒ怨恨ハ笑悅ノ中ヨリ生スルヲ如何セン蓋シ妾ハ敢テ閣下ヲ疑フニ非ラスト雖モ癡情ノ結フ所未ダ果シテ閣下ノ將軍ト車ヲ此間ニ驅ルカ將タ妾カ聞ク所ノ如ク佳人ト手ヲ携ヘテ涼ヲ那邊ニ趁フヤ否ヤヲ明ニスルヿ能ハサルナリ妾ハ明日閣下ノ言ヲ證センカ爲メニ馬ニ騎シ此地ヲ逍遥シ閣下ニ邂逅シテ其虛實ヲ決セントスト守城長愕然トシテ曰ク先キニ僕

古句所謂歡情極兮愁緒多者。

寓義氣於妬心。以究詰機密。爾時守城長之骨蕩然鎔解如綿。嗚呼這婉脣艶吻可以伸鐵鉤。可以撼天地。

守城長驚愕。此一頓

家妙東海散士何處得來。

父子之間猶不可許者獨許此娘是寫出守城長惡頗不辨入事輕重之狀處。

事以密成以漏敗業已漏之從而防其暴露愚亦甚矣春秋曰豎刁漏師於多魚此篇亦大書特書守城長之愚彼正此變其筆雖異其所以罪之則一也。

ハ令孃ニ語ル所ハ實ニ國家ノ秘事父子ノ間ト雖モ洩ス可カラサル者而ルニ令孃我ガ言ヲ信セス明日來リ會セハ之ヲ見ル者誰カ僕カ機密ヲ洩スヲ疑ハサランヤ特ニ僕カ終世ノ沈淪ノミナラス實ニ國家ノ大事ナリ願クハ令孃來ルヿ勿レ必ス重子テ相共ニ遊ハンノミト妾頭ヲ掉テ曰ク閣下カ妾ヲ拒ム所以ノモノ則チ妾カ疑フ所以ナリ妾ハ既ニ一身ヲ以テ閣下ノ生殺ニ任セント欲ス閣下ノ行為ヲ明ニセスシテ可ナランヤト守城長且慰メ且説キ辨解甚ダ勗ム妾少ク色

妬嫉之言。婉利如針。愈出愈鋭。爾時守城長之心昏昏顏色或蒼或赤五色皆備。余謂之情界之火攻。

此種妬語怨言。老妓惱殺凝漢之好手段。不知此娘何處得來。

把堂堂七尺之雄軀。弄之徑寸掌上。何等怪力。本來美人是魔物。

ヲ作シ聲ヲ厲マシテ曰ク此地ハ靜幽ノ佳境タリ來リ遊フ者固ヨリ獨リ妾等ニ限ラス且妾ハ羈旅ハ一女子ハミ閣下ト相逢フヲ知ルモノアリト雖モ安ソ敢テ深ク怪マンヤ然リ而シテ閣下痛ク妾ヲ拒テ來リ見ルヿヲ許サス豈更ニ疑ハサルヲ得ンヤ妾カ心ハ石ニ非ラス轉ス可カラス妾カ心ハ席ニ非ラス卷ク可カラス妾ハ誓テ閣下ノ幽將軍ト車ヲ共ニスルヲ見サレハ止マサルナリト或ハ疑フカ如ク或ハ怨ムカ如ク或ハ憤ルカ如ク以テ彼カ心思

何者情魔。遂使其陷迷津。守城長眞箇可憐的癡漢。

ヲ攪亂ス守城長妾カ歡心ヲ失ヒ妾カ憤怨ヲ增サンヿヲ恐レ聲ヲ和ケテ曰ク令孃ノ眞意此ノ如クナレハ宜シク令孃ノ欲スル所ノ如クナルベシ唯警吏輩ノ怪ム所トナルヿ勿レト妾心竊ニ喜ヒ語ヲ轉シ歩ヲ移シ又車ニ乘シ馬ニ鞭チ更ニ幽邃ノ中ニ入リ愈佳景ノ境ヲ見テ施施トシテ行キ漫漫トシテ遊ヒ終ニ歸路ニ就ク妾計策ノ略成ルヲ喜ヒ又前途ノ測リ難キヲ慮リ胸中紛擾語ラント欲シテ語ル能ハス笑ハント欲シテ笑フ能ハス又彼ノ疑フ所トナルヲ恐レ曲

紅蓮既籠絡敵手了。意中之事將成。後段直叙及其後事。則文字略平板。故更叙疑惑之念。繼以種種瑣事密設文字之妙。如下

入摩耶山中據高望遠。經幽峰連水落石出。此作者苦心處。讀者勿看以為閒話。

是如情人與獻嫌之客同席而坐。紅蓮之頭岑岑痛可知。

ケテ笑容ヲ作リ務メテ快樂ヲ粧ヒ遂ニ相伴テ旅館ニ還ル時ニ日漸ク沈テ街頭燈火ノ點スルヲ見ル妾時機正ニ明日ニ迫ルヲ以テ心事匆忙仲仲トシテ安シセス速ニ守城長ヲ返シ幽蘭范老ノ二人ト共ニ詳ニ其計策ヲ議シ之カ準備ヲナサントト欲スル而シテ守城長猶旅館ニ留テ未タ去ルヲ欲セス自晩餐ヲ命シ幽蘭女史ヲ呼ヒ當日ノ遊興ヲ語リ悠然晏居諧謔冗話妾ヲシテ復タ二人ト相語ルヿ能ハサラシム妾憂悶愁思肺肝ヲ刺スカ如ク頭腦ヲ碎クカ如シ郎君妾カ當日ノ

苦心ヲ察セヨト言ヒ畢リテ酒瓶ヲ倒ニシテ一杯ヲ傾ケ胸ヲ撫シテ大息ス

當日之苦心與爾時之頭痛。一齊叢至。懊惱之餘。一氣鯨飲。可憐可憐。

少焉アリテ又語ヲ繼テ曰ク既ニシテ晩餐ヲ終リ妾守城長ニ謂テ曰ク閣下今日妾カ爲メニ綏ヲ攜ヘ鞭ヲ執リ親僕御ノ任ニ當レリ其疲勞如何ソヤト守城長笑テ曰ク僕令孃ノ側ニ在ラハ恍トシテ蓬萊ニ遊フカ如シ何ソ苦艱ト疲勞トヲ覺エンヤ唯令孃ノ累ヲナスヲ恐ルヽノミト漸身ヲ起シテ辞シ去ル三人直ニ密房ニ入ル妾覺エズ聲ヲ爲シテ曰ク咄彼癡漢我カ黄金ノ光陰ヲ消スト幽蘭女史慰メ問テ曰ク且神ヲ安ンシテ今日ノ吉凶ヲ語レト妾乃懐ヲ探リテ寫ス所ノ小地圖ヲ出シ示シテ曰ク密計殆ド竅ニ中レリ是妾カ今日談笑行歩ノ中ニ作ル所ナリ甚分明ナラスト雖モ亦以テ計策ヲ講スルニ足ラント依テ指點シテ其山勢水態ヲ語リ其行裝準備ヲ計ル時ニ夜既ニ深ク四面闃寂トシテ風聲ノ静ニ戸外ニ響クヲ聽クノミ幽蘭女史曰ク更闌ニシテ市店皆已ニ眠ル器械ヲ購ヒ以テ明旦ハ備ヲ爲ス能ハス其レ之ヲ如何ス可キト范老曰

地圖一篇之草蛇灰線。處處點綴。如綠陰豐草間見一朶殘花矣。

此一頓亦妙。

是天苦其心思勞其支體欲以玉成之也其報善人如薄倖者而其實厚連叮嚀如此積水厚而後決之浩浩天下之事不可無所待焉

説風雨第一

紙上亦有風雨聲

且慰且喻溫藉婉實女流相愛之情描出

ク陋奴モ亦是ヲ以テ大ニ念トナセリ嗚乎吾畢生ノ大事智ヲ盡シ身ヲ勞シ漸ニ將ニ成ラントシテ而シテ深宵ノ故ヲ以テ終ニ其志ヲ達スル能ハサルカト妾亦嘆シテ曰ク彼賤丈夫ヲシテ去ルヿ早カラシメハ豈我カ此憾ミアランヤト聲未了ラス窓外滴滴ノ響アリ范老戸ヲ開ケハ一陣ノ涼風雨ヲ吹テ颯颯裡ニ入ル翠簾飄リ彩燈消エントス范老急ニ戸ヲ穿ツ妾大ニ喜テ曰ク噫皇天未我ヲ棄テス惠ムニ今宵ノ雨ヲ以テス我計策必成ランノミ又悲歎スルヲ要セスト幽

通眞

吉事在目前使常人處之當心跳如鼓不知辰齒折而密議熟計從容不迫如此天下之事多自沈着靜默裡烹鍊來而浮躁之人不自敗者鮮矣可不戒哉

畫策至密眞箇將家之子

蘭女史曰ク何ノ故ソヤト妾カ曰ク王羅守城長ノ郊外ニ遊フヤ將軍ノ保養ヲ計ルニ在リ故ニ風雨ヲ冒シ泥濘ヲ凌キ而シテ必行カント欲スルニ非ラス想フニ應ニ新晴ヲ待チ而シテ駕ヲ命センノミ妾等因テ一二日ノ間ヲ得テ徐ニ計畫密議スルヲ得ント風雨益甚シク簷滴ノ聲愈喧シ妾等カ前途ノ計畫モ亦明旦ニ非ラサルヲ知リ胸襟僅ニ綽然タルヲ得タリ妾又地圖ヲ把テ反覆其計策ヲ説キ且曰ク此事成ラハ何ノ地ニ奔テ而シテ可ナランカ佛國寂便ナリト雖モ境

豫畫事後遁走之計。意深慮遠。宜矣哉。無左衽陷大澤之患也。嗚乎。虞氏帳中之飲。徒舞以侑酒耳。無一語及大事。彼蓋市井之一艷妻。而重瞳溺愛猶且如此。使其見蓮蘭二姬。其垂涎如何也。又宜矣哉。散士之留連忘返也。

界嚴肅ニシテ電線通セサル處ナク追迹亦必急激ナラン皇兄ヲ戴キ將軍ヲ慕フノ南方ニ遁レシカ是亦人ノ最モ意ヲ注ク處ニシテ政府ノ警察彼ヨリ密ナルハナカラン妾甚タ之ニ惑ハサルヲ得スト幽蘭女史ノ曰ク妾モ始メ之ニ迷ヘリ然レトモ漸ニシテ其計ヲ得タリ蓋シ幸ニ老父ヲ奪フ丁ヲ得ハ直ニ路ヲ東北ニ取リ其備エサルニ出テカメテ蹤跡ヲ晦シ伊武浪河ヲ渡リ以太利ニ航シ歐洲ノ俠勇自由ノ泰斗タル峨馬治ニ倚ラント欲スルナリ其一諾ヲ得テ而シテ去就ヲ決セハ天下ノ强國モ亦以テ奈何トモスル丁能ハス身ハ泰山ノ安キニ在テ遂ニ前狼後虎ノ患ナカラン想フニ老父ハ見ル所モ或ハ之ニ同シカランカト范老寀ヲ拍テ曰ク此計最妙ナリ孫子曰ク水ノ形ハ高ヲ避ケテ而シテ下ニ趨リ兵ノ形ハ實ヲ避ケテ而シテ虛ヲ擊ツト又曰ク千里ヲ行テ而シテ勞セサルモノハ無人ノ地ヲ行ケハナリト今日ノ事兵事ニ非ラスト雖モ之ニ鑑ミテ以テ謀ヲ講セハ大過ナカル可シト妾モ亦之ヲ賛シテ議即チ決ス時ニ案頭ノ自鳴鐘鏗鏗ト

歐人自有歐人之口吻。清人自有清人之口吻。如野草瓶花趣異苦同妙甚。

曰短銃。曰男裝。皆是行兇利器也。前日携望遠鏡以託游覽。妖氛猶藏于和氣中。至此殺氣炎炎逼人。猶名優欲演出幽鬼。先點陰火於疎柳間。讀者不覺髮立。

レテ第四點ヲ報ス明早風漸ク收マリ雨未ダ歇マス范老英船ノ水手ト稱シ市ニ出テ、三個ノ短銃ト二襲ノ男裝トヲ購ヒ妾等ハ房中ニ在リ行李ヲ整ヒ書冊ヲ火シ各明日ノ準備ヲ爲ス日既ニ晌午ヲ過キ煙霏ヒ雨散シ清涼初秋ニ似タリ幽蘭女史カ曰ク王羅モ亦是姦猾多智一個ノ老漢ナリ尚其動靜ヲ詳ニシ情ヲ飾リ意ヲ迎ヘ彼ヲシテ更ニ疑フ所ナカラシム可シト妾乃チ人ヲ遣シテ之ヲ招キ幽蘭女史ト故サラニ閒雅愉悅ノ狀ヲ裝ヒ諧謔怨言以テ彼カ動止ヲ試ム彼既ニ

才華煥發。粲如春花。

心骨蕩然トシテ悠悠款語又更ニ怪訝ノ態アルヲ見ス談笑差久フシテ彼將ニ歸リ去ラントス妾其手ヲ握リ微笑シテ曰ク夜來多情ノ雨行路ヲ遮リテ今日手ヲ握ルノ歡樂ヲ導キ今宵無賴ノ風滯雲ヲ掃テ明日臂ヲ把ルノ佳興ヲ妨ク然レトモ若シ幸ニ好機ヲ得ハ翠野碧溪ノ間ニ逍遙シテ遠ク玉姿ヲ認メテ妾カ相思ノ情ヲ慰メン ト彼乃チ首ヲ回シ笑テ曰ク是亦僕ノ望ム所ナリ但令孃必ス他人ノ怪ム所トナルヿ勿レト門ヲ出テヽ去ル此夜妾館主ヲ呼ヒ託シテ曰ク妾等明

二姫亦柔順而疾足者。所謂牝馬之貞欤。

部伍整整。是亦孫吳之小兵法。

一頓最妙。

日聯騎郊外ニ遊ハント欲ス願クハ爲メニ二頭ノ駿馬ヲ備ヘヨ性柔順ニシテ疾足ナルモノヲ可ナリト爲スト又地圖ヲ開キ范老ニ示シテ曰ク先ツ此松林ニ至テ妾等ノ到ルヲ待テト翌旦范老行李ヲ負ヒ農夫ノ裝ヲ爲シテ去ル少焉ニシテ妾等モ亦素飾輕粧シテ出ツ幽蘭女史白馬ニ騎シ妾驪馬ニ鞭チ馳セテ郭門ニ至ル二人ノ警吏アリ佇立シテ道路ヲ視察ス一人進テ我馬前ヲ遮リ幽蘭女史ヲ止メ將ニ問フ所アラントス他ノ一人急ニ來リテ其肩ヲ打チ暫ク耳語シテ、相共ニ笑ヒ徐ニ進路ヲ開テ曰ク貴孃行矣行矣又問フ所有ル無シト是蓋シ守城長ノ家奴ニシテ妾等ノ彼ト親ムヲ知リ漸ク怪ム所ナキナリ一夜ノ雨半日ノ晴泥路新ニ乾テ馬蹄塵ヲ颺ケス既ニシテ松林ノ蓊鬱タルヲ見ル妾乃チ馬ヲ進メテ其中ニ入ル范老獨リ樹根ニ踞シ行李ヲ側ニシ煙ヲ吹テ妾等ノ至ルヲ遲テリト紅蓮尚ホ言フ所アラントス時ニ老僕數顆ノ果實ヲ竹籃ニ盛リ入リ來リテ曰ク邸後ノ林檎漸ク熟スルニ似タリ何ソ甘酸ヲ試ミサルト紅蓮直ニ小刀ヲ把リ

喰甘蔗漸入佳境。忽留餘味撇開一路猶好演師滔滔話去至復讐一段留為望夜招客之地。

談將入佳境。故成一小頓使人發焦心。是亦文章家秘訣。

一顆ヲ切テ兩片トナシ一片ヲ以テ散士ニ與ヘ自一片ヲ喫シテ曰ク嗚乎是仙掌ノ甘露ニ勝ル妾カ喉舌僅ニ浥フヲ得タリ請フ更ニ其後ノ狀ヲ語ラン

范老乃チ行李ヲ開キ粧束ヲ變セシム妾等直ニ衣ヲ脫シテ男裝ヲ穿チ頭ニ烏黑ノ高帽ヲ戴キ目ニ鴨綠ノ眼鏡ヲ掛ケ假髩鼻下ヲ掩ヒ短銃腰間ニ在リ遠ク之ヲ望メハ堂堂タル兩個ノ好丈夫ナリ相見テ覺エス一笑ス笑聲未終ラス原頭遙ニ匹馬ノ嘶クアリ我馬亦耳ヲ欹テ、相和セン

用意周密。范老眞是兼偏裨將。而當百萬卒者。

彼早此遲。間不容髮。可以見天意矣。

ト欲ス范老急ニ木枝ヲ取リ馬口ニ銜シ更ニ一條ノ麻索ヲ以テ固ク其上ヲ結ヒ嘶鳴スル能ハサラシム暫クニシテ二騎アリ轡ヲ並ヘ左視右顧シテ過ク范老林間ヨリ之ヲ見テ節ヲ拍テ曰ク嗚乎皇天未我ヲ捨テス今日ノ事既ニ成矣ト妾問テ曰ク何爲レソ此言ヲ爲スト范老曰ク彼ハ卽警吏ノ路上ヲ斥候スルモノナリ彼ヲシテ來ルヿ一刻遲カラシメンカ我ヲシテ去ルヿ一刻早カラシメンカ我策悉ク彼ノ發現スル所トナリ積日ノ苦心轉瞬ノ間ニシテ徒ニ畫餅ニ歸

火牛囊沙之計。彼舉一國之兵。驅諸侯之卒。以為之積石之策。此范老一身。難易分明。嗚乎這老將軍。足以奴田而僕韓矣。

センハ眞ナル哉機會ノ來ル間ニ髮ヲ容レサルヤト直ニ疾奔シテ橋邊ニ至ル妾幽蘭女史ト之ヲ望メハ范老身ヲ屈シテ數個ノ大石ヲ運轉シ力ヲ極メテ路上ニ亂列シ礌落崎嶇車馬ヲシテ通ス可カラサラシム既ニシテ還リ來リテ曰ク造父鞭ヲ擧ケテ八龍ヲ御スルモ王羅ハ車那處ニ留マランハミ老奴其側ニ伏シ銃ヲ發シテ號ヲ爲シ以テ彼ヲ刼サン兩娘直ニ馬ヲ驅リ大聲叱呼シテ來リ迫レト再身ヲ轉シテ去ル妾等年猶壯ニシテ意氣最雄ナリト雖モ骨柔ニ肱弱ク其成否未ダ計ル可カラス范老其人ノ如キハ親ラ經歷スル所頗多ク老成着實事ニ臨テ而シテ懼レ謀ヲ好テ而シテ成ス者眞ニ得易カラサルノ才ナリ今妾等ノ此人ヲ得タルハ亦是旻天ノ誠忠ヲ憐ムノミ少時ニシテ幽蘭女史小邱ニ上リ直ニ下リ忙シク告ケテ曰ク一輛ノ馬車橋邊ニ向テ來ルト妾之ヲ聞キ心胸鼓動脇脇トシテ波瀾ハ如シ乃氣ヲ鼓シ勇ヲ振ヘ躍テ馬ニ跨リ草葉木枝ヲ隔テ之ヲ見ル歷歷トシテ辨ス可シ御者鞭ヲ執テ車前ニ坐シ警吏劒ヲ帶ヒテ其左

雲從龍風從虎。同類相集者物之情也。二姬之與范老。其猶影於形歟。

讀者亦心胸鼓動。筆飛紙舞四字。可以評此文。

ニ倚リ守城長幽將軍ト相語テ其中ニ並坐ス馬車漸ク橋邊ニ近ツカントスルニ方リ一發ノ砲聲忽然樹間ニ響ク守城長大ニ驚キ聲ヲ放テ曰ク賊アリ賊アリ馬ニ鞭チ速ニ走レト語未終ラス乍又爆然一聲警吏ヲ射テ之ヲ傷ク警吏倒レテ路側ニ墮ツ妾等機ニ乘レ短銃ヲ提ケ馬ニ鞭チ之ニ迫ル守城長御者ト魂散シ魄褫ハレ其成ス所ヲ知ラス唯力ヲ極メ鞭ヲ輪シ馬背ヲ亂打ス馬亦大ニ駭キ鬣ヲ振ヒ蹄ヲ揚ケ橋畔ニ向テ走ル忽巨石ノ路上ニ横ハルニ逢ヘ進マント欲

昔者商君之出多力而駢脅者為驂乘持矛而操闇戟者旁車而趨此一物不具不出然車裂之刑竟不可免信哉恃力者亡恃德者昌也嗚乎彼警吏亦何能為

幽將軍ヲ奪フノ圖

神田區東松下町十六番地小柴英印行

無一綴筆。無一漫筆。字字勁。句句勁。章章勁。所謂一瀉千里。又所謂疾雷不及掩耳者。

シテ進ム能ハス道路狹隘ニシテ追騎後ニ在リ退カントスルニ退ク能ハス周章狼狽ノ狀想フ可シ幽蘭女史急ニ西語ヲ以テ疾呼シテ曰ク伏兵速ニ出テヨ姦賊ヲ誅シ忠良ヲ救フハ此一擧ニ在リト御者之ヲ聞キ鞭ヲ捨テ自ラ水中ニ投ス守城長モ亦身ヲ跳ラシテ遁レントス范老之ヲ認メテ大ニ怒リ一拳擊テ車下ニ倒シ直ニ進テ短銃ヲ擬ス妾之ヲ留メテ曰ク彼姦惡己ニ貫盈スト雖モ豈漫ニ殺スニ忍ヒンヤト時ニ幽蘭女史馬ヲ下テ其傍ニ在リ乃チ馬口ノ麻索ヲ解キ

使馬琴筆記之。必於此處談舊話新。使人不堪讀。告老將軍僅數句。眞得敘實之妙。

以巾裹面。令不知其所之也。范老用意周密。事事皆然。非老世事者不能。

范老ニ與ヘテ、守城長ヲ、縛セレメ、自車上ニ向ヒ、將軍ノ手ヲ、取リ扶ケテ、車ヨリ下レ、涙ヲ揮ヒ、告ケテ、曰ク、此二人ハ、兒ガ刎頸ノ友ニシテ、皆生ヲ捨テ、今日阿爺カ、危急ヲ救ヘル者ナリ、先ツ此處ヲ、遯レテ、而シテ後、詳ニ其顚末ヲ、語ラント、范老、守城長ヲ、縛シ、且白巾ヲ、以テ、其面ヲ、裹ミ、引テ、林中ニ、至リ、固ク、樹根ニ、繫キ、又前キニ、脫スル所ノ、女裝ヲ、携ヘ、來リテ、妾等ニ、與フ、妾卽チ、幽蘭女史ト、相扶ケテ、男裝ヲ、去リ、將軍ト、范老トヲシテ、之ヲ、着セシメ、再身ヲ、變シテ、馬上ニ、跨ル、范老、亦

英傑所見。同軌一轍。

服ヲ、變シ、直ニ、車轅ヲ、毀チ、馬綏ヲ、斷チ、其二馬ヲ、解キ、右手ニ、纓轡ヲ、執リ、左手ニ、將軍ヲ、摩キ、呼テ、曰ク、閣下、請フ、先ツ之ニ、騎セヨト、更ニ、舊衣ヲ、執テ、河流ニ、投シ、自他ノ一馬ニ、跨ル、幽蘭女史、將軍ニ、問テ、曰ク、將ニ、何ノ地ニ、遁レントスト、將軍、曰ク、命ヲ、皇天ニ、委子テ、路ヲ、東北ニ、取リ、伊太利ニ、向ハンノミト、女史ノ、曰ク、老父ノ、見ル所、亦、兒ト、異ナルヿナシト、是ニ、於テ、四人、鑣ヲ、連子、鞭ヲ、鳴ラシ、塵ヲ、颺ケ、沙ヲ、捲キ、將軍之カ、先導トナリ、路ヲ、無人ノ境ニ、取リ、東北ニ、向テ、馳奔スル、十餘

困苦之狀。寫得妙絶。

風雨伏線。

佳人名將賜戴鬼道。

里漸ニシテ餓渇交迫ル將軍勇壯矍鑠意氣世ヲ蓋フノ風アリト雖モ久シク囹圄ノ中ニ在リ肉癯セ神衰ヘ之ニ加フルニ當日騎スル所ノ馬鞍ナク鐙ナク寂寞四肢ヲ勞スルヲ以テ困憊殊ニ甚シ既ニシテ日暮レ馬疲レ之ヲ牽ケトモ動カス之ヲ鞭テトモ進マス四人已ムヲ得ス馬ヲ棄テ歩ス時ニ雲暗フシテ星河光ナク風起リテ山雨降ラントス路上闇闇險夷ヲ辨セス一歩一息唯脚ニ任セテ行ク夜漸深フシテ疲饑亦極マリ遂ニ一歩ス可カラサルニ至ル首ヲ回セハ

非是地獄遇佛。即是極樂遇鬼也。三人入茅屋偷一息之安。以為不足憂。特不知其所以為安者。乃其所以危也。

一條ノ岐路アリ相去ルヿ甚ダ近フシテ一茅屋ノ路傍ニ在ルヲ認ム皆悅テ曰ク以テ一餐ヲ求ム可シト近テ之ヲ見レハ路上ノ馬廐ナリ荒寥閒寂人ノ敢テ守ルモノナシ皆大ニ望ヲ失フ然レ𪜈又歩ヲ移ス能ハサルヲ以テ相携ヘテ樓上ニ登ル蛛網縱横塵埃寸積陋謂フ可カラス身ヲ轉シテ其中ニ卧ス范老首ヲ擧ケテ窓隙ヨリ遥ニ孤燈ノ林間ニ映スルヲ見身ヲ起シテ曰ク老奴請フ去テ食ヲ求メント直ニ樓ヲ下リ故サラニ階ヲ徹シテ去ル妾等積勞ノ餘覺ヘス眠ニ就ク

説風雨第二。

聞風聲鶴唳。以為千軍萬馬至。卧石蟠根皆為我大敵失踪之人。莫不皆然。何獨怪此三人哉。

暫クニシテ霹靂一聲吾夢ヲ破ル驚テ目ヲ開ケハ金蛇閃閃壁ヲ穿テ入リ雷聲隱隱山ヲ破テ來ル狂風茅屋ヲ捲カントスル驟雨江河ヲ傾クルニ似タリ未久シカラス近ク人馬ノ聲アリ雷音雨響ト相混シテ至ル妾身ヲ起シ急ニ幽蘭女史ニ耳語シテ曰ク彼聲豈追兵ノ迫ルニ非ラスヤト語未終ラス戶外喧騷或ハ呼テ曰ク發見セリ發見セリト妾之ヲ聞キ以為ラク命運茲ニ極マレリト胸惕惕トシテ悸キ怒氣勃勃トシテ發ス乍ニシテ十數人ノ士卒戶ヲ排シテ入ル一人火

鬼果主矣。三人以為不可免。特不知其所以為危者其所以安也。天下之事。或安或危。皆出人意外。故詩曰。善戲謔兮。不為虐兮。言天公多戲也。

佳人名將。留焦熟地獄。

ヲ點シテ曰ク幸甚幸甚薪炭此ニ在リ火爐彼ニ在リト相集マリテ火ヲ樓下ニ燒キ濕衣ヲ脫シヲ乾シテ談笑ス妾等カ意少ク安ンス士卒火ヲ燒クヿ益熾ニ焰煙漸樓上ニ滿チ袖ヲ掩テ之ヲ防クモ避ク可カラス呼吸ニ隨テ鼻口ノ間ニ出入シ叫ハントスル欲シテ叫フ能ハス起タントスル欲シテ起ツ能ハス苦艱煩悶眞ニ堪ユ可カラサルニ至ル妾聲ヲ潛メテ曰ク空シク命ヲ焰煙ノ中ニ失ハンヨリハ寧決鬪シテ死ヲ潔スルニ若カスト幽蘭女史制止シテ曰ク是所謂血氣ノ勇ノ

故作驚人之事。

ミ何ソ身ヲ輕ンシテ賤兵弱卒ノ手ニ死セヘヤ
忍フベクシテ之ヲ忍フハ尋常ノ人ノミ忍フ可
カラスシテ之ヲ忍フハ妾等ノ望ム所ニ非ラス
ヤ忍テ而シテ此ニ死スルモ一歩ヲ動ス可カラ
ス且彼妾等カ樓上ニ匿ルヽヲ知ラス唯來テ風
雨ヲ避クルノミ久シカラスシテ必去ラント妾
已ムヲ得ス首ヲ俯シテ士卒ノ去ルヲ遲ツ樓下
火ヲ燎クヿ或ハ寛ニ或ハ猛ニ焔煙屢昇騰シテ
氣息絶エント欲スルモノ數回將軍卒然苦聲ヲ
發シテ咳息ス樓下ノ一卒忽チ之ヲ聞キ衆ニ告ケ

賴朝石橋山之敗潛大樹洞中敵兵追蹤白鳩出於洞中敵以為無人僅得免三人之潛于屋上敵以為鼠竟不窮索英雄一興一亡有踪相同者可謂奇矣。

郭門警吏知情不誰何城外追兵遇仇不窮索嗚乎彼素王羅之部下耳其愚其暗無足怪也。

テ曰ク樓上人アリ今咳息ノ聲ヲナセリト一卒
曰ク否此レ小鼠ノ響ノミ廐舍何ソ人アルヲ得
ント或ハ怪ミ或ハ笑ヒ談論久シク決セス一人
曰ク登テ而シテ之ヲ探ランノミト身ヲ動シテ
曰ク階梯ナシ登ル能ハスト一人曰ク既ニ階梯
ナシ人ナキ必セリ又何ヲカ怪マント一笑シテ
止ム既ニシテ士卒等相語テ曰ク東方漸白ク雨
聲亦微ナリ賊徒是ヨリ必南方ニ奔リテ頓加羅
黨ニ寄ラン然レモ彼徒歩ノミ追捕固ヨリ難カ
ラスト行裝ヲ整ヘ歩騎相間リテ出ツ妾等虎口

凡筆必曰急啓窓神氣清爽至於此猶示殘烟滿室非筆力有餘裕不能

善男善女被范菩薩濟度得脫苦患其功德無量

ノ難ヲ脫シ心神少ク定マル然レ𪜈餘煙漠漠トシテ未室内ヲ去ラス乃窓ヲ啓テ之ヲ掃ハントス雙手ヲ支ヘテ半身ヲ起セハ忽殘煙ノ薫灼スル所トナリ目眩シ魂迷ヒ撲然トシテ臥ス樓下范老ノ聲アリ曰ク將軍兩娘ト恙ナキヤ敵兵既ニ南方ニ去レリト妾之ヲ聞キ微聲ヲ發シテ曰ク范老速ニ窓戸ヲ啓ケ又希クハ一杯ノ水ヲ與ヘヨト范老水ヲ馬槽ニ盛リ登リ來テ妾ニ與ヘ直ニ窓ヲ開キ巾ヲ振テ焔煙ヲ掃フ妾一喫シテ蘇生ノ思ヲナシ手ヲ延ヘテ幽蘭女史ヲ揺カ

自古聰明人傑概皆不遇際屯蹇之運陷坎坷之境與死隣者數然屈于生而伸于死晦于一時而顯于千古則未可以此易彼是固難與豪傑同弟俱語也

レ又水ヲ進メント欲ス女史俯臥レテ更ニ應セス諦視スレハ則將軍ト相保持シテ氣既ニ絶エ息已ニ歇ミ僅ニ血脈ノ微動スルヲ感スルノミ妾范老ト驚愕スル殊ニ甚シ乃其口ヲ開キ水ヲ注キ背ヲ擁シテ呼フ少焉アリテ二人目ヲ開キ精神差定マル女史范老ヲ顧ミテ曰ク范老去テ後追卒皆至妾以爲ラク范老路ニ捕ヘラレ妾等カ潛匿亦已ニ露ルト既ニシテ其然ラサルヲ知リ又以爲ラク范老未縛ニ就カスト雖モ歸リ來ラハ其禍害眞ニ計ル可カラスト戰戰トシテ薄

氷ヲ履ムカ如ク競競トシテ深淵ニ望ムカ如シ之ニ加フルニ焔煙樓上ニ充チ氣息通スル能ハス妾等カ愁苦亦想フ可シ然レ𪜈衆皆恙ナキヲ得タリ是豈天ニ非ラスヤト范老曰ク老奴先キニ林下ニ至リ一農家ヲ認メ戸ヲ敲キ情ヲ述ヘ食ヲ求メテ還ル時ニ雷雨驟ニ至リ殆歩ヲ移ス可カラス因テ暫ク之ヲ樹下ニ避ク遥ニ人馬ノ聲西方ヨリ至ルヲ聞ク心大ニ之ヲ訝リ雨ヲ犯シテ廬邊ニ近ツケハ追卒ノ屋内ニ亂入スルナリ老奴之ヲ見テ胸ヲ撫シテ曰ク嗚乎已矣ト短

二姫一將。在萬軍重圍中。孤城落日。勢不可測。范老欲衝圍直入其勇不啻馮門之樊將軍。

銃ヲ腰間ニ取リ直ニ進テ死ヲ決セント欲ス更ニ近テ壁間ヨリ之ヲ窺ヘハ人人蹲踞徒ニ火ヲ燎キ濕衣ヲ乾スノミ是ニ於テ神魂始メテ安シ乃チ屋後ニ匿レテ其去ルヲ待テリト四人涙ヲ垂レ手ヲ握リ互ニ其事ナキヲ祝シ相携ヘテ樓ヲ下ル饑疲既ニ極マリ踉蹌トシテ歩ス能ハス范老携フ所ノ麵包ヲ出シ妾等ニ供ス妾等手指ヲ以テ分割シ立テ之ヲ喫ス美大牢ノ如シ漸ニシテ氣力少シク加ハリ精神始メテ安シ將軍妾トヲ范老トニ謂テ曰ク令孃ト令兄トノ厚誼ヲ以テ

幽將軍茅屋之麵包光武帝鉏陀河之麥飯異世同味。

百忙中忽挿叙四顧景色。是亦一種有聲之畫。

虎穴ヲ脱レ鰐口ヲ逃レ遂ニ此ニ至ルヲ得タリ若レ躊躇レテ速ニ去ラサレハ再ト危険ニ逢フモ亦知ル可カラス宜シク勇ヲ鼓レテ國境ヲ超ユヘシト三人茅屋ヲ出テ、岐路ヨリ西ニ入ル山漸深フシテ路益険ニ峭壁萬重樵路ヲ尋子懸崖千仞鳥道ヲ攀ツ風寂トシテ四ニ飛鳥ノ聲ナク雲淡クシテ遥ニ孤猿ノ叫フヲ聞ク漸クニシテ一山ノ絶頂ニ達ス目ヲ放テハ伊武浪河蜿蜒トシテ翠崖青原ノ間ヲ流ル出没隠見銀蛇ノ草間ヲ奔ルニ似タリ一道ノ汽車蒼靄ヲ穿チ黒煙ヲ

散士衆長於叙景。使人有自擊其地之想。

既已脱鰐口。而又陷虎穴。今又將出虎穴。遥認鐵車之横奔。亦是舊國稽都望之暢然之想。

吐キ北ニ向テ山脚ヲ過ク蜈蚣ノ身ヲ動シテ孤繩ヲ渡ルカ如シ將軍足ヲ巖角ニ欹テ指シテ妾等ニ告ケテ曰ク彼鐵路ハ即北境ニ通スルモノナリ此間僻陋ニシテ警衛頗緩ク又吾輩ヲ疑フ者アル可カラス何ソ下テ而シテ之ニ乘セサルト范老曰ク吾カ心既ニ百里ノ外ニ奔リテ而シテ酸脚僅ニ尺歩ナル能ハス大鵬ノ翼ヲ假リテ青穹ニ搏タンカ長房ノ術ヲ借リテ地脈ヲ縮メンカ是兩ナカラ共ニ成ス能ハサルモノ幸ニ今彼鐵路アリ請フ將軍ハ言ニ從テ速ニ之ニ乘セ

ントト直ニ荊棘ヲ排シ峻阪ヲ下リ僅ニ鐵路上ニ出ツ更ニ鐵路ニ傍テ西ニ行クヿ里餘一停車場アリ裡ニ入テ待ツヿ良久シ眞ニ天ニ跼シ地ニ蹐スルノ思アリ夜十點鐘遂ニ汽車ニ搭ス旅館ヲ出テトヨリ山野ヲ跋渉スルヿ一百里飲食ヲ絶ツヿ二日ニ亙リ身疲レ脚痛ミ覺エス熟睡シテ拂曉ニ至ル汽笛一聲目ヲ開ケハ身ハ已ニ停車場ニ在リ相携ヘテ車ヲ下ル枯腸揺腹步脚蹣跚トシテ又進ム能ハス乃チ一酒店ニ入ル或ハ汽車ヲ待ツ者或ハ汽車ヲ下ル者室内ニ充滿シテ

生意蘇色漸溢于紙表。

是諺所謂疑心生暗鬼者。憲兵之日常有逆臣亡人之眼常有偵吏信哉。

殆ト膝ヲ容ルトノ地ナシ妾等戶邊ニ佇立シテ左右ヲ顧盼スルモノ久シ一老翁アリ狀貌獰惡額上ニ一創痕ヲ印ス幽將軍ヲ熟視シ其側ニ進ミ揖シテ曰ク弊廬別ニ小室アリ貴客以テ憩フ可シト誘テ一樓ニ至ル裝致清麗又一人ノ客ナシ少焉ニシテ主翁自ラ往來シテ酒食ヲ饗ス來ル每ニ必ス目ヲ將軍ニ注ク妾心ニ之ヲ疑フ主翁去ルニ及テ幽蘭女史將軍ニ謂テ曰ク主翁ノ擧動常ニ異ナリ其言語亦疑フ可キ者アリ豈偵吏ノ徒ニ非ラサル無カランヤト范老色ヲ變シテ曰ク

故鶯急遽狀使人吃一驚妙。

或ハ然ラン若シ然ラハ則チ計宜シク何如カスヘキト戸外ニ聲アリ低ク幽ク將軍ト呼フ四人忽然トシテ起立シ相見テ未タ一語ヲ發セス戸外又忙シク語テ曰ク果シテ然リ果シテ然リト急ニ戸ヲ排シテ入ル主翁ノ一壯士ヲ伴フナリ范老目ヲ瞋シ短銃ヲ擧ケテ之ヲ射ル發セス妾亦短銃ヲ執テ主翁ニ擬ス主翁壯士ト共ニ大ニ驚キ手ヲ揮テ呼テ曰ク誤ル勿レ誤ル勿レ某等固ヨリ將軍ニ不利ナル者ニ非ラスト將軍妾ト范老トヲ顧ミ止メテ曰ク暫ク彼ノ言フ所ヲ聞ケト壯

范老朴質剛愎。恵旋風一様人物。

是易所謂非仇婚媾者。

空谷跫音。猶且回首。況崎嶇間關中。忽接舊人乎。將軍一驚一喜可知。

士乃チ跪テ將軍ヲ諦視シ涔涔然淚ヲ流シテ曰ク尊容ヲ拜セサル茲ニ數年顧フニ將軍既ニ某ヲ記セサル可シ某ハ伊黎ナリト將軍曰ク然ラハ則チ足下ハ武羅ノ役賤兒ノ軍ニ在リシ者ニ非ラスヤト伊黎曰ク然リ回顧スレハ一千八百七十四年將軍ノ賢息ニ從ヒ共和黨ノ大將魂沙ノ中堅ヲ衝キ先登第一ノ功ヲ以テ擢ラレテ一軍ノ長ト爲レリト將軍曰ク嗚乎彼魂沙年八旬ヲ過キ壯勇無雙叱咤奔馳シテ我軍ニ當ル我軍亦將ニ披靡支ヘサラントス時ニ劒ヲ揮ヒ馬ヲ躍ラ

一斷一續。彼我交錯。而語路娓娓。一線不亂。如貫珠聯環壘壘不斷。

斯翁而有斯子。

セ彼ノ陳ニ入リ遂ニ魂沙ヲシテ鋒鏑ニ殪レシメタル者ハ眞ニ足下ナリ老眼遂ニ此非常ノ勇士ヲ誤ル實ニ愧ツルニ堪エタリト伊黎曰ク當時某重傷ヲ蒙ムリ家居シテ病ヲ養ヒ更ニ爲ス所ナク其後啞奔象王位ニ卽キ皇兄ノ軍利アラス賢息戰没シ將軍遠ク遁ルト聞キ憤恨骨髓ニ徹シ慷慨止ム能ハサルナリト巾ヲ以テ淚ヲ拭ヒ更ニ主翁ヲ指シテ曰ク此卽某カ老父ナリト主翁言ヲ繼テ曰ク老奴モ亦皇兄ノ軍ニ從フ者其敗ルヽニ方テ此創ヲ負ヒ踪ヲ北方ニ匿シ遂

澤畔漁父識三閭大夫。酒肆庖老識敗軍之將。眼光烱烱人實不可以容取也。

天緣萍遇。是豈人事。

ニ豚兒ト共ニ生計ヲ此ニ營ムノミ昨者相傳ヘテ謂フ三勇士幽將軍ヲ山野ニ奪ヒ未タ其踪跡ヲ知ラスト先キニ將軍ノ弊廬ニ臨ムヤ一見シテ以爲ラク容貌ノ憔悴昔時ニ異ナリ伴フ所亦三士ニ非ラス然レ𪜈眉目音吐ハ宛然幽將軍ニ似タリト且疑ヒ且怪ミ遂ニ獨決スル能ハサルヲ以テ豚兒ヲ招キ私ニ戶隙ヨリ尊容ヲ窺ハシメタリト范老之ヲ聞キ天ヲ仰テ嘆シテ曰ク嗚乎天ナリ嗚乎天ナリ我銃ヲシテ手ニ隨テ發セシメハ空シク有爲非常ノ同志者ヲ倒シテ遂ニ身

寫出壯士口吻甚妙。

ヲ容ルヽハ地ナキニ至ラン射テ而シテ發セス擬シテ而シテ射セス幸ニ此禍ナキヲ得タリ豈天ニ非ラスヤト少焉アリテ伊犂問テ曰ク將軍此ヨリ將ニ何處ニ向ハントスト將軍カ曰ク伊太利ニ航センノミト伊犂曰ク諺ニ曰ク白龍魚服セハ預且ノ網ニ絓ラント今將軍從者甚少ク而シテ前路ハ戒嚴嚴備ハレリ豈危カラスヤ若カス將軍檄ヲ傳ヘテ壯士ヲ募リ京城ニ向フト揚言シ旗ヲ返シテ東佛境ニ入ランニハ此地亦皇兄ヲ慕ヒ將軍ヲ欽ム者多シ其父子不才ナリト雖モ主トシテ之ニ應セハ數百ノ鄉勇半日ヲ出テスシテ召集スルヿヲ得ン勢颶風ノ沙礫ヲ捲クカ如ク敵ヲシテ疾雷耳ヲ掩フニ遑アラサラシメハ志ヲ得ル何ソ難シトセンヤト將軍ノ曰ク余ハ是敗軍ノ殘將ノミ豈死ヲ惜ムノ故ヲ以テ有爲ノ壯年ヲシテ身ヲ鋒鏑ノ下ニ委子無辜ノ百姓ヲシテ兵馬ノ慘ニ罹ラシムルニ忍ヒンヤト主翁カ曰ク獨將軍ノ爲メニ謀ルニ非ラス實ニ社稷ノ爲メニ之ヲ謀ルナリ大行ハ細瑾ヲ顧ミス斷シテ而シテ行ヘハ鬼神モ亦之ヲ避

重瞳垓下之敗。烏江亭長勸以渡江曰。江東地雖小。可以王矣。重瞳不聽。曰。何面目再見江東父兄乎。東坡稱羽不救沛公。猶有君人之度。余乃以謂羽不渡江。有將人之量。何也。夫成敗天也。興亡命也。人唯勉其在我者而已。勉其在我者。而兵敗國亡。

是天耳命耳。非人力所如何也。非人力所如何而猶欲事之成。是謂之逆天。夫命逆天。夫命而興者未曾有。羽亦人傑也。心知其然。故不復渡江。而授首於呂馬童。泚然視死如歸。其曰何面目見江東父兄者。恐言以慰父兄悲死者之情耳。非有將人之量者。爲能如此哉。奈破倫之脫謫處。謀再舉。西鄉南洲之遷舊里。鷲父老其心以爲。舊國猶有慕我者。可以依倚成事。特不知天既厭之。命既去之。非復人力所如何也。

ク、若シレ遲、遲、タラバ、再ヒ不虞ノ辱ヲ受ケン、卽チ吾黨ノ興復遂ニ復期ス可カラサルナリト辭氣悲壯眞ニ肺腑中ヨリ出ツ將軍曰ク兵ヲ起スモ敢テ大功ヲ計ルニ非ス徒ニ輕舉暴動以テ天下ノ譏ヲ招キ後世ノ笑ヲ遺スニ過キス且路ヲ伊武浪河ニ取リ水ヲ渡リテ伊太利ニ入ラハ是無人ノ境ヲ過クルナリ更ニ危レトナスニ足ラスト二人其動ス可カラサルヲ知リ妾等ヲシテ皆麤服ヲ着レ農裝ヲナサシメ一輛ノ村車ヲ僦ヒ將軍ヲ車中ニ伏サシメ覆フニ氈氊ヲ以テシ伊梨

是以一敗塗地。貽辱遺臭。英雄末路往往如此。彊弩末力不能貫縞。可悲夫。嗚乎。幽將軍達天知命。恩恥忍辱。眞是大勇大剛之人也。

脫危險後逢山明水白。何等愉快。至此始說出獄中往事。最親作者經營之妙。

父子左側ニ倚リ妾幽蘭女史ト右側ニ坐シ范老御トナリ酒店ヲ發ス路上卒ニ敢テ怪ム者ナク薄暮奇洲河ニ達ス伊梨父子東西ニ周旋シテ一小舟ヲ僦ヒ急ニ妾等ヲ乘ラシメ手ヲ握テ後會ヲ期シ涕泣シテ別ル

白帆西風ニ孕テ舟行ク矢ノ如シ翌日第十二點始メテ河港ニ泊シ更ニ櫓ヲ轉シテ多島海ニ入ル西國ノ山髣髴トシテ漸ク白煙ノ中ニ沒シ伊邦ノ船漂搖トシテ遠ク蒼波ノ上ニ出ツ青螺ノ浮フカ如キモノハ群島ノ横ハルナリ白鶴ノ翔ル

假間詰發露計策之顛末。前編中曖昧不了事。至此釋然氷解。使幾多之渴想忽爾下臍下。其不落筆力處是最勞筆力處。

カ如キ者ハ布帆ノ走ルナリ奇觀佳景杳杳トシテ船首ヨリ來ル時ニ追躡ノ憂ナク疲勞モ亦始メテ癒エ心思僅ニ間ナルヲ得タリ因テ往ヲ談レ來ヲ計リ悲喜交集マル將軍妾ニ謂テ曰ク阿孃薔薇花ハ計實ニ人ノ意表ニ出ツ始メ余モ亦之ヲ知ル能ハス唯賤兒ノ其後ニ在ルヲ見テ以爲ラク此豈意ナレトセント蕾ヲ破リ瓣ヲ開ケハ果レテ一小紙片アリ文字細微宛トシテ蠅頭ノ如シ是ヨリ其言ニ從ヒ飲食ヲ絶チ陽ニ病ト稱シ日ニ郊外ニ逍遙シテ今日アルニ至レリ阿

舉善讓功。温良幽順。可尚可尚。

范老或為謀士。或為候騎。或為伏兵。忽而勇剛陷陣之戰士。忽而儻厚好禮之君子。一身百役。軍功第一。

娘ハ大恩終生忘ル可カラサルモノト妾カ曰ク此事元令孃ノ策スル所妾輩唯之ヲ行フニ過キスト女史曰ク偏ニ令娘ト范老トノ厚誼ニ依ルナリト將軍カ曰ク兩君各曠世ノ大望ヲ抱キ而シテ余カ爲メニ縮心縷骨一モ顧ミル所ナシ天下ノ人誰カ感セサル者アランヤト范老曰ク予聞ク君子ハ節ヲ奮テ以テ義ヲ顯ハスヲ樂ミ烈士ハ軀ヲ危フシテ以テ仁ヲ成スヲ甘ンス是ヲ以テ雄俊ノ徒義ヲ重ンシ命ヲ輕ンシ分ニ感シ身ヲ遺ル故ニ田光ハ劒ニ北燕ニ伏シ公叔ハ命

范老迴優黑旋風處在此。

ヲ西秦ニ畢フ果毅輕斷谷風ニ虎歩シ萬乘ヲ威慴シテ華夏雄ヲ稱ス奴輩老矣ト雖モ豈亦志氣ナカランヤト或ハ慷慨悲憤腕ヲ扼シテ談シ或ハ歡然款語ロヲ開テ笑フ既ニシテ舟伊國ノ海港ニ近ツク將軍首ヲ擧ケテ港灣ヲ望ミ大ニ驚テ曰ク吾事已矣ト言フリ憮然タルモノ久シ妾等怪テ其故ヲ問フ將軍曰ク何ソ夫檣頭ハ旗幟ヲ見サルヤト又遥ニ市街ヲ指シテ曰ク見ル所皆半旗ハ凶禮ヲ表スルナリ豈峨馬治ハ死ニ非ラサル無キヲ知ランヤト急ニ舟ヲ進メテ岸ニ

許多苦難漸已脫去。而羈旅又失所依。如檣朽之舟。罹傷之禽。嗚乎神農虞夏忽焉沒兮。吾其誰適歸。

談兵說劍。可知胸中有萬丈之光燄。

上リ之ヲ路人ニ叩ケハ果シテ峨馬治ノ死スルナリ

峨馬治ハ伊太利國左流濡亞州ノ人ナリ一千八百七年内須島ノ貧家ニ生ル少シテ大志アリ素ヨリ韜略ニ深シ兵ヲ談シ劍ヲ說クロ懸河ノ如ク形勢ノ危險ヲ指畫スル歷歷トシテ目前ニ在ルカ如シ歳二十五ニシテ同志ト謀リ州王阿留平土ニ背キ人民ヲシテ自由ヲ得セシメントス事破レテ國ヲ去ル後二歳ヲ經テ歸リ復前圖ヲ繼クヲ謀ル遂ニ捕ヘラレ

軍敗被捕。

峨公畢生寄行。予掩

之以二十字曰英雄蓋無事平地起波瀾藉口知何為漫言救世艱

軍敗見擒二

拷略百端想當喜辭肉之消

テ將ニ死刑ニ處セラレントス獄ヲ越エ遁レテ佛國ニ至ル其後埃及船ニ搭シ亞非利加ニ航シ治乳ノ酋長ニ說キ自海軍士官トナル一千八百三十六年南米ニ航ス時ニ利於具蘭國部羅治ハ羈絆ヲ脫セントス欲シテ兵ヲ擧ク峨馬治其擧ヲ助ケ兵十六人ヲ率ヰ戰艦ヲ指揮シテ部羅治ノ大軍ト戰フ兵敗レテ生擒セラル拷略百端死ニ濱スルモノ數ナリ既ニシテ兩國和成リ生還スルヿヲ得未幾ナラス再ヒ伊太利人八百ヲ率ヰテ利於具蘭國ノ爲メニ武

軍敗而降三

威能世ノ大統領牢佐須ト戰ヒ大ニ之ニ捷ツ一千八百四十八年伊太利ニ歸ル是ヨリ先キ伊太利屢澳太利ノ凌轉スル所トナリ邦域日ニ縮マル峨馬治之ヲ見テ慷慨自禁スル能ハス即チ手兵ヲ將テ澳軍ニ當ル遂ニ敗レテ軍門ニ降ル明年伊太利ノ民羅馬人ト謀ヲ通シ紛然蠢動竿ヲ揭テ競ヒ起リ皆君ヲ逐ヒ自主スルヲ以テ辞ト爲シ邦内洶洶タリ峨馬治往テ之ヲ援ケ直ニ法王ヲ逐ヒ城ニ據テ堅守ス方ニ法王ノ世權ヲ革メ共和政治ヲ施カント議

軍敗而遁四。

ス時ニ那不流人佛兵ト勢ヲ合シ來リ攻ム峨馬治自ラ矢石ノ間ニ馳騁シテ戰フ一前後三十日遂ニ其孤軍守ル能ハサルヲ知リ城砦ヲ毀チ橋梁ヲ徹シ圍ヲ衝テ逃ル千八百五十六年左流濡亞佛國ト連合シテ澳國ト戰フニ及テ峨馬治義勇兵ヲ募リ自ラ其先鋒トナリ屢奇功ヲ奏シ其一郡ヲ割テ吾版圖トナス當時那不流王暴戾至ラサルナシ獅子利島ノ人之ヲ怒リ相共ニ叛ヲ謀ル峨馬治慨然トシテ劒ニ杖テ之ニ赴キ一呼衆ヲ糾メ那不流ノ守兵ヲ逐

功成名遂而身退。嗚乎其風山高水長。唯其癖在好事。故一退一出。不能入山善身。是其所以屢敗。而其所以為千古之奇男子。亦在此。

ヒ諸城ヲ下シ威四鄰ニ震フ偶左流濡亞王伊麻乳留ノ來リ會スルニ逢ヒ力ヲ合シテ那不流ヲ攻メ其王ヲ走ラシ左流濡亞王ヲ立テ伊太利王トナス是ニ於テ伊太利遂ニ諸國ヲ兼併シ一統ヲ爲スヲ得王其功ヲ賞シ授クルニ大將ノ印綬ヲ以テス峨馬治之ヲ辭シ瓢然海島ニ歸ル此時ニ當テ伊太利既ニ境内ヲ一統スト雖モ佛澳ノ横恣猶昔日ニ異ナラス峨馬治之ヲ見テ悲憤ノ情禁スル能ハス一千八百六十二年乃書ヲ政府ニ呈シ澳國ト絶タン

軍敗見擒五。

軍敗見捕六。

ヲ勸ム報セス峨馬治之ヲ怒リ自義勇兵ヲ募リ將ニ羅馬ヲ襲ヒ佛ノ戍兵ヲ追ハントス政府報ヲ聞テ大ニ驚キ兵ヲ遣テ之ヲ止ム肯セス因テ大ニ返戰ス峨馬治重傷ヲ蒙テ擒セラル王其舊功ヲ以テ之ヲ救ヒ海島ニ放タシム千八百六十七年又義勇兵ヲ集メ法王ノ領地ヲ侵シ羅馬ノ民ヲ救ハント欲ス事未成ラスシテ捕ヘラレ其海島ニ幽セラル既ニシテ又脫シテ羅馬ニ入リ遂ニ國民ヲ馳テ法王ノ兵ヲ破ル佛ノ援軍來リ乘スルニ會シ軍敗レテ

軍敗見擒七。

峨馬治落落奇偉屢蹶屢起蹶而不慎起而不喜俊然如鳥之自飛自止是其為人有一種慷慨之癖平日扼腕俟天下有事。

又生擒セラル會哀ヲ請フ者有リ赦サレテ海島ニ歸ルヲ得タリ一千八百七十年普佛隙ヲ搆ヒ佛帝降虜トナリ佛人共和政ヲ立テ、普軍ヲ拒ム峨馬治之ヲ聞キ慨然奮テ力ヲ効サント欲ス直ニ佛國ニ入リ義勇兵ノ將トナリ大ニ盡ス所アリ和成ルニ及テ巴黎ニ赴キ代議士ニ擧ケラル既ニシテ辭シ去ル又或ハ書ヲ佛國議院ニ送リ帝統世襲ノ制ヲ難スルカ如キ世流美門泥寧路二國ノ獨立ヲ聞キ其部下ヲ嗾スル(セルヴィヤモンテネグロ)カ如キ偉功卓節天下ノ耳目ヲ驚

一旦變生。一劍飄然。趨之如鷙鳥之搏雀。歸馬之望廐。不復問其関于我與否也。蓋是西歐之大俠。

比須麥克聞男爵斯比留土之訃。歎曰。天下無復知己。幽將軍末路適失一知己。其感何啻比相之於卑矣。

ス者勝テ數フ可カラス蓋峨馬治其性忠正惻怛義ヲ好ムヿ渴スルカ如ク天下ノ民一人自由ヲ得サルモノアレハ已ニ擠シテ水火ノ中ニ陷ルヽカ如シ其行ヲ見ハ亦以テ其志金石ヲ貫キ雲漢ニ薄ルヲ知ル可キナリ

將軍茫然自失スルモノ久シ既ニシテ曰ク余少フシテ諸國ニ遊ヒ一國ノ人傑ニ於テ交ラサル所ナシ而シテ世ノ以テ雄儁英傑トナス所ノ者ハ桀黠ノ徒ニ非ラサレハ權謀詐術ノ輩ニ過キス義ニ勇ニシテ道ヲ好ミ盛衰ヲ以テ節ヲ改メス存亡ヲ以テ志ヲ易エサル者ハ未曾テ之ヲ有サルナリ天下ノ廣キ人物ノ多キ伊ノ峨馬治佛ノ巖鼈跎之ニ庶幾トナス故ニ余常ニ曰ク俱ニ志ヲ談シ事ヲ計ルニ足ル者ハ獨リ此二子アルノミト而シテ今ヤ峨馬治則チ亡矣豈悲シカラスヤ敗殘潛伏ノ者固ヨリ以テ葬儀ニ會ス可カラス既ニ事ヲ計ル能ハス亦喪ニ會スルヲ得ス永ク此地ニ留マルモ亦何ヲカ成サン若カス速ニ佛國ニ赴キ巖鼈跎ヲ見テ而シテ去就ヲ決センニハト乃チ一逆旅ニ投シ一日ヲ經テ汽船ニ乘シ更

英雄識英雄。豪傑交豪傑。故曰。見其友可以知其人矣。曾聞異身一體。意氣相投者莫如朋友。故朋友謂第二之吾。亦何不可之有。今幽將軍倘一息於敗殘之餘。其自以為猶死者久矣。而今又失第二之吾。則有形無影。有聲無響者。其悲可知也。

滔滔娓娓。叙來叙去。忽又入散士紅蓮對話。併叙當時之悲與現時之情。萬感歷歷。散士慰紅蓮之語。極婉切極悽惻。猶演劇者。夫妻生別一齣。妻抱兒號泣兒亦一聲。呱呱如惜別者。使觀者添二層之悲哀妙甚。

ニ佛國ニ向フト語了リテ紅蓮徐ニ首ヲ低レ沈思スル所アルカ如ク愁慮スル所アルカ如ク又敢テ言ハス散士曰ク令娘胡爲レソ其後ノ狀ヲ語ラサルト紅蓮曰ク是ヨリ死別ノ一話ナリト散士曰ク速ニ語レ速ニ語レ語リ畢ラサレハ令娘カ悲哀ノ情永ク開クヿナシ聞キ畢ラサレハ僕カ悼惜ハ懷遂ニ安スルヿ能ハスト紅蓮涙ヲ揮ヒ聲ヲ呑ミ漸首ヲ擡ケテ曰ク然ラハ則是ヨリ將ニ幽將軍父子及范老死没ノ狀ヲ語ラン此日俱ニ一室ニ在リ四人端ナク怏怏トシテ樂

神田區東松下町十六番地小柴英印行

流船覆没ノ圖

無端鬼氣滿紙。

說風雨第三。夫得蒼將軍於原頭者。風雨

マス憂愁自色ニ形ハレ談少ク語短シ妾幽蘭女史ヲ促シ甲板ヲ歩ス女史曰ク初竈谿ヲ出テ、大西洋ヲ航スルニ方リ精神激昂意氣發越奮然山ヲ拔クノ概アリ今ヤ勇心挫折志力衰勞眞ニ鬱鬱ノ情ニ堪エサルナリト妾曰ク妾モ亦今孃ニ異ナラス思フ所有ルモノハ如シ自其何ノ故タルヲ知ル能ハス天霽氣朗光景極メテ佳ナリ眺矚シテ以テ神ヲ慰メンノミト既ニシテ膚寸ノ雲颯颯ノ風ニ從ヒ江山ノ巔ニ起リ蓬蓬トシテ疊嶂ノ狀ヲナ

也。山中驚魂者。亦風雨也。而其遂淖分逢散。或死或隱者。亦風雨也。始於風雨終於風雨。其脈絡貫通整整可見矣。抑作者說風雨。有先於是者。矣散士之再訪蹄水也。不能遂其志者亦風雨也。然則風雨之所貫線。非特此三者。既有先於是者。豈知無有後於是者哉。

目眩魂悸。殆不可讀

ス。風威漸加ハリ。疏雨從テ至ル。天暗フシテ疾雷近ク震ヒ。海潮逆流飛沫空ニ散ス。妾等大ニ驚キ匍匐シテ僅ニ室内ニ入ル。怒濤益洶湧。暴風愈獰飄忽ニシテ舳九天ニ上ルカ如ク。忽ニシテ艫九泉ニ入ルカ如ク。左立右臥轉輾反側。船體ノ顛覆眞ニ計ル可カラス。乘客困沛。或ハ柱楹ヲ抱クアリ。猿猱ノ木ニ倚ルカ如ク。或ハ力衰ヘテ床上ニ轉スルアリ。丸子ノ板上ヲ走ルニ似タリ。既ニシテ激浪玻窓ヲ破リ流沫淒淒トシテ船中ニ入ル時ニ器物破碎ハ響船夫號叫ノ聲。悽悽慘慘聞ク

天柱折地維拯。人類殆滅矣。血池地獄之慘。亦未必如此之甚也。

ニ堪エサラシム。實ニ飛豪カ十九世紀ノ小說モ及フ能ハサルノ狀アリ。未ダ久シカラス。或ハ大聲疾呼シテ曰ク。船暗礁ニ觸レ。今將ニ沈没セントス。乘客速ニ甲板ニ上レト。妾等急忙階子ヲ攀チテ板上ニ出ツ。滿天暗黑。逆浪山ノ如ク覆テ甲板上ニ落ツ。北風怒號ノ中。哀聲悲音救ヲ求メ援ヲ乞フ者。激浪ノ響ト相和シ。地之カ爲メニ裂ケントシ。天之カ爲メニ覆ラントス。船長死ヲ決シ。小艇數隻ヲ下シ。乘客ヲシテ皆之ニ移ラシム。浪舞フ丁殊ニ高ク。船搖ク丁甚モ甚タシ。容易ニ飛ヒ下

瑣微流離。一難排而一難又至。人生苦患。世途艱嶮。欲避而不可避。避之有道。舊雲氏出世法是也。嗚乎出世哉。出世哉。功名之絆。富貴之羈。絶之非難矣。

節節生奇。層層追險。眞令讀者到此心路都休。目光盡滅。金聖嘆曾評宗江揭陽鎭之一節曰。脫一虎機。令入一頭蹈一虎機。令入一頭讀一頭嚇。不惟讀亦讀不及。雖嚇亦嚇不及也。移可以評此編。

ル能ハス或ハ先ヲ爭ヒ或ハ時ヲ失ヒ其波間ニ溺ルヽモノ極メテ多シ妾亦人ノ爲メニ隔テラレ幽蘭范老ノ諸氏ト相失ス乍チニシテ女史將軍ト早ク小艇ニ乘シ大船ノ下ニ在ルヲ見ル妾乃チ意ヲ決シ身ヲ屈シ將ニ飛ヒ下ラントス一道ノ激浪天ヲ摩シテ至リ切然中間ヲ遮リ一轉シテ小艇上ニ倒碎ス小艇忽然波間ニ沈没シ女史ト將軍ト其影ヲ見サルニ至ルヽ而メ范老ハ遂ニ其之ク所ヲ知ラス妾時ニ恐怖ノ念已ニ去テ必死ノ心已ニ決ス唯茫然トシテ立テ飛沫ノ中ニ在リ耳邊聲アリ曰ク速ニ逃ル可シ何ソ故サラニ躊躇シテ此ニ在ルト妾ヲ扶ケテ小艇ニ移シ一小島ニ達ス此間夢ノ如ク幻ノ如ク漠トシテ明ナラス少時ニシテ岸ニ上リ首ヲ回セハ汽船既ニ覆没シテ僅ニ帆檣ノ怒濤ノ上ニ出ツルヲ見ルノミ嗚乎三友已ニ魚腹ニ歸シ妾獨何爲レソ今日ニ至ルヤ生テ其志ヲ同フシ死シテ其處ヲ俱ニスルヿ能ハス此ニ再ヒ郎君ニ逢フ豈愧チサランヤ天下ノ人春花ニ吟シ秋月ニ嘯キ瑤臺ニ坐シ大牢ニ飽キ艱難屯邅ノ何事タルヲ知ラス

死者豈欲死哉。生者固不期生也。故死者命也。生者亦命也。其死其生。孰辛孰苦。眞是一世夢寐。

語語悽慘。字字悲惻。此等之感。豈獨紅蓮哉。天下多失意不平人。讀之誰不酸鼻。

一生ヲ行樂ノ中ニ送ル者多シ妾等何ソ獨轗軻
軀軌浮世ノ憂苦厄運ニ縛セラレ曾テ人生ノ幸
福ヲ享クル能ハサルヤト愀然涙ヲ垂レテ大息
ス

佳人之奇遇卷五畢

明治十九年六月十五日版權免許
明治十九年八月三日刻成出版

著者兼出版人　福島縣士族　柴四朗　牛込區牛込早稲田南町三拾七番地

製本兼發賣人　東京府平民　博文堂　原田庄左衛門　日本橋區久松町拾五番地

Thistown & Angel Reserve